

インターネット古書店・ほんのたまごミニコミ紙

miniたま (みにたま)

2018.5 第92号

茶屋染帷子の杜若

日本のタレントや官僚だけにとどまりません。「セクシュアル・ハラスメント問題」が、世界的なムーブメントになってしまっています。「米映画最大の祭典アカデミー賞を主催する映画芸術アカデミー」は3日、映画監督のロマン・ポランスキー氏（84）と黒人コメディアンビル・コスビー氏（80）の会員資格を剥奪し、アカデミーから追放すると発表した」（読売新聞5月5日付首都圏版朝刊より）

ポランスキーは1977年に米国で13歳の少女にわいせつ行為をした容疑で逮捕され、その翌年に国外逃亡、現在はフランスに住んでいます。2003年に「戦場のピアニスト」でアカデミー賞監督賞を受賞しましたが、もちろん米国での授賞式には出席しませんでした。大御所コメディアンビルは2004年に自宅で知人女性に薬物を飲ませて暴行した容疑で有罪の評決を受け、近く量刑が言い渡される——と読売新聞は結んでいます。

ポランスキーといいコスビーといい、世界的なアーティストがなぜセクハラを？と置いていたら、翌4日、さらに驚くべきニュースが飛び込んできました。本年度のノーベル文学賞の発表見送りです。これもスウェーデン・アカデミー会員の妻を持つ写真家のセクハラ問題に端を発しています。

こんなことが流行しては困るのです。

～関連書籍のご紹介～



解説「地獄の黙示録」	文春文庫	¥400
ロミー 映画に愛された女 女優ロミー・シュナイダーの生涯	国書刊行会	¥2,000
素晴らしき哉、フランク・キャブラ	集英社新書	¥500
ある戦慄 THE INCIDENT	HPB1030 ハヤカワ・ミステリ	¥900
ローマの休日とユーロの謎	東洋経済新報社	¥800
大人のための「ローマの休日」講義	平凡社新書	¥500
「ローマの休日」を仕掛けた男 不屈の映画人ダルトン・トランボ	中央公論新社	¥2,000
マリア・ブラウンの結婚 Die Ehe der Maria Braun	朝日出版社	¥1,500
エル・アレフ EL ALEPH	平凡社ライブラリー	¥600
ファスビンダー、ファスビンダーを語る第1巻	株式会社boid	¥1,500



すでに売切れの場合がございます。ご了承ください。詳細はサイトをご覧ください。

ほんのたまごは文芸作品や、自然科学・人文・出版・社会・映画などの古書を販売するインターネット古書店です。

ほんのたまご

著作権は放棄していません
本紙に掲載されている画像・文章の
無断転載を禁止します

発行 インターネット古書店 ほんのたまご
メールアドレス nasuka@hontama.com
サイト URL <http://www.hontama.com>

たまたま本の話

第92回 独断と偏見で10本を選ぶ

外国映画オールタイムベストテン

今回は映画の話。独断と偏見で外国映画オールタイムベストテンを選んでみたので、ご笑覧を。(順不同)

① 地獄の黙示録

監督: フランシス・フォード・コッポラ 製作: 1979年、アメリカ
ベトナム戦争映画を作るとハリウッドに宣言して、ジョゼフ・コンラッドやトマス・エリオット、ジョージ・フレイザーなどを換骨奪胎させた個人的な映像文学をコッポラは作ってしまった。特に2002年に編集された特別完全版をお勧めしたい。新たに加わったフレンチ・プランテーションの場面、ベトナムに介入したアメリカとフランスの食卓で交わされる議論は、そのまま戦争論として読める。

② 夜明けの舗道

監督: ジョン・ニューランド 製作: 1970年、イギリス
ロミー・シュナイダー演ずる母親の、息子へのゆがんだ愛情がサスペンスを生む隠れた傑作。精神分析的映画として、アルフレッド・ヒッチコックの「サイコ」や「めまい」を凌ぐのでは？

③ 或る夜の出来事

監督: フランク・キャブラ 製作: 1934年、アメリカ

④ スミス都へ行く

監督: フランク・キャブラ 製作: 1939年、アメリカ

キャブラ映画を2本。実はキャブラ・タッチというよりも、当時ハリウッドで全盛のスクリーボール・コメディを撮ったら、まさにキャブラ映画になってしまったのが「或る夜……」。それに対して、まぎれもなくキャブラ・タッチで撮ろうとして撮ったのが「スミス……」。そのどちらもが傑作で、どこを切ってもキャブラなのだからすごいの一語に尽きる。

⑤ ある戦慄

監督: ラリー・ピアース 製作: 1967年、アメリカ
映画は大きく2通りに分かれる。グランドホテル・システムとロードムーヴィーだが、両要素の幸福な結実がジョン・フォードの「駅馬車」だとすれば、こちらはホテルを地下鉄に置き換えて、さらに人種問題などを加味して練り上げられている。凡百のニューシネマとは一線を画する。

⑥ ローマの休日

監督: ウィリアム・ワイラー 製作: 1953年、アメリカ
あまりに傑作なので、タイトルに隠された意味にまで考えが及ばない。「ホリデー・イン・ローマ」でなく「ローマン・ホリデー」なのだ。つまり「ローマの休日」ならぬ「ローマ人の休日」。古代ローマ人が休日に兵士どうしの殺し合いをコロシウムで観戦して楽しんだように、グレゴリー・ペックとオードリー・ヘップバーンの成就しない恋を、観客の皆さんは存分に楽しんでください、という意味がこめられた恐るべき映画。

⑦ コンバット 恐怖の人間狩り

(日本未公開、テレビ放映、VHS発売)

監督: ハーヴェイ・ハート 製作: 1976年、カナダ

ダグラス・フェアバン「銃撃！」が原作の低予算映画。アクション映画かと思いきや、途中からフランツ・カフカの迷宮に吸い込まれていくのに驚かされる。ラストシーンには、銃社会アメリカの抱える問題と米ソ冷戦時代の緊張感がメタファーとして漂っているように感じる。

⑧ マリア・ブラウンの結婚

監督: ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー 製作: 1979年、西ドイツ
西ドイツという国も、1989年のベルリンの壁崩壊と東西ドイツ統一で消えてしまった。戦後世代のトップランナーであるファスビンダーが戦後のドイツ社会を1人の女性の運命に託して描き切った、いわばドイツ版「浮雲」。ハンナ・シグラは高峰秀子を超えたか？

⑨ 暗殺のオペラ

監督: ベルナルド・ベルトルッチ 製作: 1970年、イタリア
「ルナ」「ラスト・エンペラー」「リトル・ブッダ」と連なる、ベルトルッチの輪廻転生テーマのルーツは、この1970年のホルヘ・ルイス・ボルヘス原作の小品にあったことに納得。考えてみればフョードル・ミハイロヴィチ・ドストエフスキーの「分身」を映画にしたのもベルトルッチだった。

⑩ 生きていた男

監督: マイケル・アンダーソン 製作: 1958年、アメリカ
どんでん返しのある映画は、どんでん返しがあるということさえ、本来うたってはいけない。しかしあっと驚く意外な結末ベスト5といった企画に、「サイコ」やアンリ・ジョルジュ・クルーゾー「悪魔のような女」とともに顔を出す常連作品なので、お許しを。緻密な構成は映画作りのお手本のようだ。(こや)